

16 アクシアシリーズ製品の施工方法

(フリーゼ/ラボ/ランバー/ヴェレージ/ベッキオ/コロソ/ボルケ/トラッド/サークル/ラスキン)

「アクシアシリーズ」カラーページP.246～257

〈施工方法〉

① 路盤施工

クラッシュラン(C-30またはRC-30)を、仕上がり高さを考慮し、厚さ100mmになるよう十分に締固めを行い、平坦な路盤を作ります。排水勾配は必ず路盤で確保してください。

P.18参照

② 敷砂の敷きならし

敷砂には粒度の良い川砂や砕砂を使用し、プレート式コンパクターなどを用いて転圧します。仕上がり高さ(30mm)を考慮し、ならし板等を用いて平らにならします。

③ アクシアの敷設

敷き始めの基準点および基準線を設定します。基準点は長い直線で設置されている縁石などの1点とし、その基準点を通り、直交する2本の基準線を水糸で設定します。アクシアをゴムハンマーなどでたたき押さえながら敷設します。



④ 目地調整

基準線に従い水糸を縦横に直交させて張ります。水糸からはみ出たアクシアをバールなどで調整するとともに、アクシアの目地幅がほぼ均一となるように調整します。

⑤ 端部処理

規格ユニットで納まらない場合は、アクシアをダイヤモンドカッターなどで切断加工して納めます。端部に縁石を使用しない場合は、側面をモルタル、またはコンクリートで端部固定処理を行ってください。

⑥ 目地詰め

泥分の混じらない乾燥した良質の細目砂(最大粒径2.36mm以下)または珪砂を用い、ほうきなどで十分に充てんします。

⑦ 転圧

アクシアを、ゴム付き小型コンパクターで転圧してください。このとき、振動による破損を防ぐために、必ず試験転圧を行って振動の強さを決めてください。

※ラボ、コロソ、ランバーアンティークは塗膜を傷つける可能性があるため、コンパクターでの転圧は行わず、「⑧仕上げ」を行ってください。



⑧ 仕上げ

バールやゴムハンマーなどで目地と不陸の最終調整を行った後、転圧により乱れた目地砂を再度目地にはき込みます。

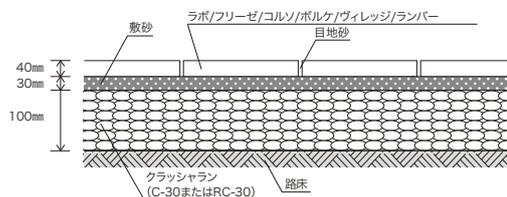


図 図-1 ラボ/フリーゼ/コロソ/ボルケ/ヴェレージ/ランバー参考施工図

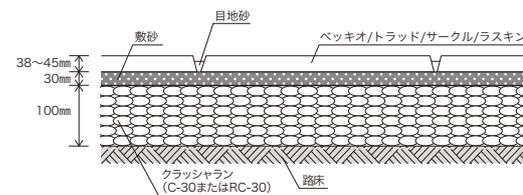


図 図-2 ベッキオ/トラッド/サークル/ラスキン参考施工図

⚠️ ご注意

- ・路盤の平坦性が十分に確保されていないと、敷砂が不均等になり不陸、またはアクシアの破損原因となります。
- ・路盤の締固めが不十分だと、支持力が不均一となり不陸、またはアクシアの破損原因となります。
- ・敷砂は4.75mm以下の粗目砂とし、シルトや泥分が少なく、ゴミ、小石などを含まないものを使用してください。
- ・効率よく敷設するために、割付け図に基づいて敷設してください。
- ・バールなどで目地幅を調整する場合、アクシアが欠けないように注意してください。
- ・ラスキンのブリックコーナー、ブリックインフィルの厚みは45mmになっておりますのでご注意ください。